公益財団法人 横浜市国際交流協会

YOKOHAMA ASSOCIATION FOR INTERNATIONAL COMMUNICATIONS AND EXCHANGES (YOKE)

事業案内 2023

私たちは、国際都市横浜の歴史的・文化的特性を継承しつつ、
異なる文化や価値観をともに認め、尊重し合える豊かな社会づくりを目指します。

― YOKE ミッションステートメント―

公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）は、外国人も暮らしやすく社会参画しやすいまちづくりに向け、

「多文化共生のまちづくりを支援する事業」

「グローバル人材の育成を支援する事業」

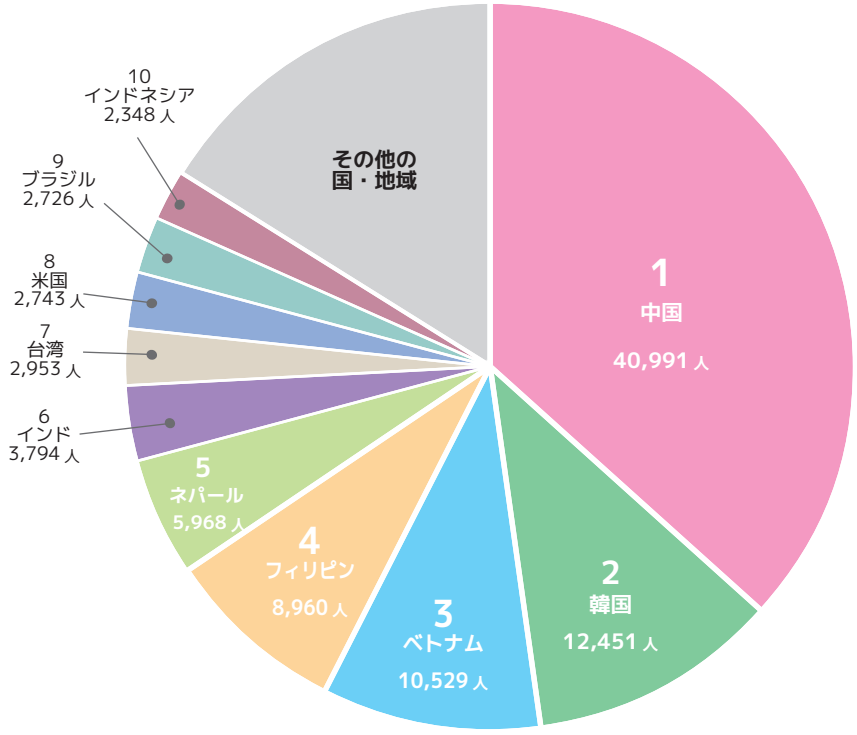
「国際協力・国際交流に関する施設を管理運営する事業」

を市民とともに進めている横浜市の外郭団体です。

横浜市の外国人人口

111,229 人

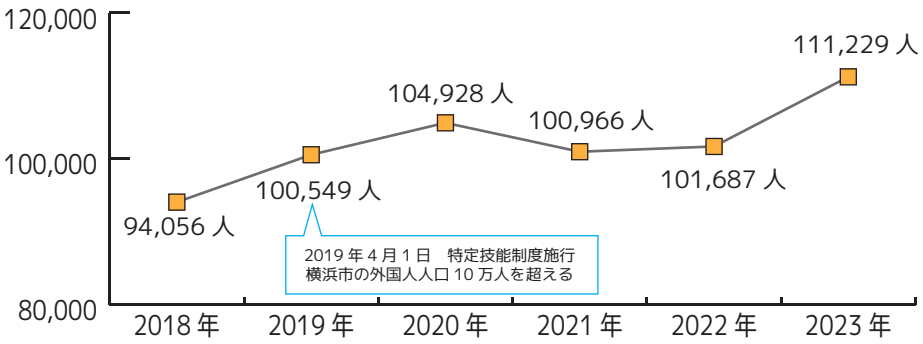
約160か国・地域の人々が暮らしています。横浜市の人口3,774,611人の約3%が外国人です。



国籍・地域別　人数上位 10 か国・地域

2023 年 5 月末現在
参考　横浜市ポータルサイト

横浜市外国人人口の推移



各年 5 月末現在
参考　横浜市ポータルサイト

横浜市多文化共生の根拠規定等

出典：横浜市国際局作成資料

□ 条例・指針・基本計画

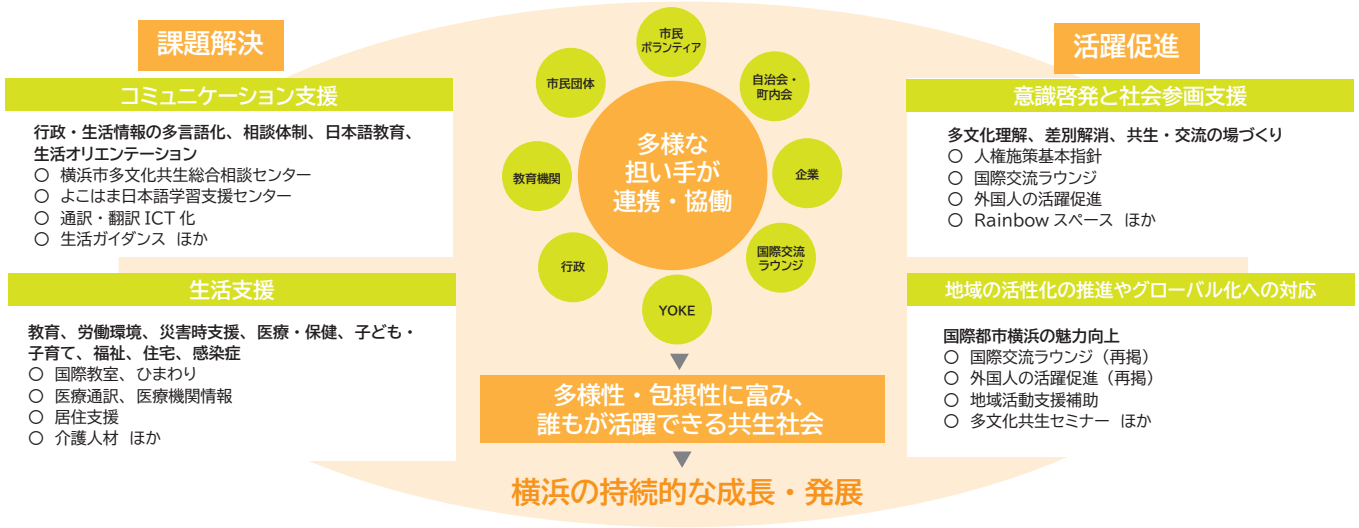
横浜市国際平和の推進に関する条例 … 国際交流、国際協力、多文化共生等を通じた国際平和への貢献と必要な財政措置

横浜市国際戦略 … 重点的な取組の柱「多文化共生の推進」

横浜市多文化共生まちづくり指針 …
基本目標「多文化共生による創造的社会の実現」※各部門の計画・指針等において多文化共生の視点を取り入れ
例：横浜市人権施策基本指針、横浜市子どもの貧困対策に関する計画、横浜市多言語広報指針、やさしい日本語での情報発信

横浜市中期計画 2022-2025 …「多文化共生の推進」（政策 11）を政策課題に位置付け
施策 1 在住外国人に対する情報提供・相談対応・日本語学習の充実、**施策 2** 日本語学習が必要な児童生徒へのきめ細かな支援、**施策 3** 多様性と包摂性による多文化共生の基盤づくり

□ 横浜市多文化共生施策の推進イメージ



横浜市外国人意識調査から

出典：令和元（2019）年度横浜市外国人意識調査

▶ 外国人が困っていることや心配なこと（複数回答）

1 位	日本語の不自由さ	29.8%
2 位	病気になった時の対応・病院で外国語が通じない	19.3%
3 位	自分または家族の健康	14.7%
4 位	災害時・緊急時の対応	14.6%
5 位	子どもの教育	14.5%

▶ 外国人がやってみたいと思う地域活動（複数回答）

1 位	日本に来たばかりの外国人支援	36.7%
2 位	言葉を教える	32.4%
3 位	通訳・翻訳をする	31.0%
4 位	外国の文化や習慣を教える	21.7%
5 位	地域のイベントを企画する・手伝う	21.5%

▶ 外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組（複数回答）

1 位	在住外国人に対する支援体制の充実・強化	49.7%
2 位	外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる	45.3%
3 位	外国語での相談体制を充実させる	43.0%
4 位	外国人の子育てや子どもの教育を支援する	40.6%
5 位	日本人の異文化理解を進める	33.7%

▶ 「多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと」への設問へ「おおいに望む」と答えた割合

外国の文化・生活習慣を理解するように努める	37.2%
日本語・日本の習慣を外国人住民に紹介する	34.0%
地域の外国人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する	26.6%
日頃から外国人の住民と言葉を交わす	26.5%
外国語を習得するよう努める	23.0%

横浜市のウクライナ情勢への対応と YOKE

2023 年 8 月 18 日現在、横浜市に避難しているウクライナ人は 70 組 117 人です。横浜市では、ウクライナから横浜に避難されて来た方々へ「オール横浜 支援パッケージ」として行政だけでなく、市民・企業・民間団体等、皆様と力を合わせて、オール横浜で避難民の皆様の安全・安心な生活を支援しています。

YOKE では、横浜市から「ウクライナ避難民相談窓口」や「ウクライナ交流カフェ ドゥルーズィ」の運営を受託し、避難民の皆様への生活支援、情報提供、日本語学習支援、交流の場の提供等を行っています。

ウクライナ情勢への対応／横浜市
https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/kokusai/kokusai/shimai/2022odesa.html

ウクライナ避難民相談窓口の様子

「日本舞踊との出会い」2023 年 5 月 25 日

「日本語ワークショップ ゆかた体験」2023 年 7 月 14 日

「イラストワークショップ」2023 年 7 月 21 日

公益財団法人横浜市国際交流協会設立の目的

（定款第３条）
この法人は、横浜の国際都市としての歴史的・文化的特性を継承しつつ、その一層の発展に向けて、異なる文化や価値観を共に認め、尊重し合える豊かな社会づくり、国際交流・国際協力の促進を図ることを目的とする。

公益財団法人とは

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」で規定されている公益認定基準（※）を満たし、学問、芸術、慈善の分野において不特定かつ多数の者の利益に資する事業を実施している法人です。

※公益目的事業に係る収入がその実施を要する適正な費用を償う額を超えないと見込まれること、公益目的事業費の比率が 100 分の 50 以上であること、遊休財産の制限があることなどの基準が設定されています。

公益財団法人横浜市国際交流協会沿革

理事長	小野﨑 信之
所在地	神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1　パシフィコ横浜　横浜国際協力センター５階
沿　革	昭和 56（1981）年７月８日　任意団体「横浜市海外交流協会」として設立
	昭和 57（1982）年 12 月 28 日　財団法人認可
	平成５（1993）年３月 20 日　特定公益増進法人認定
	平成 11（1999）年４月１日　「横浜市国際交流協会」に名称変更
	平成 16（2004）年６月 13 日　中区山下町　産業貿易センターから現住所に事務所移転
	平成 22（2010）年 11 月１日　公益財団法人へ移行登記
基本財産	476,943,972 円

ごあいさつ

2022 年度から始めたウクライナ避難民支援事業では、相談窓口開設、避難民同士の交流拠点の運営、日本語学習支援など、様々な取り組みを実施しました。支援メニューは時間の経過とともに変化し、避難生活の長期化に伴い、就労や健康維持に関する支援などにも及んでいます。今後も、横浜市をはじめとする関係機関と連携しながら、避難民の皆さんが安心して暮らすとともに、癒やしになるような取り組みを実施していきます。一方、公的な支援以外にも、市民･団体･企業の皆様の温かいご支援により、避難民を支援する催しが各地で実施されました。

こうした各方面から寄せられる関心や支援活動、新たに出来た繋がりを、ウクライナ支援に留まらせることなく、広く多文化共生を進展させる契機にしていきたいと考えています。

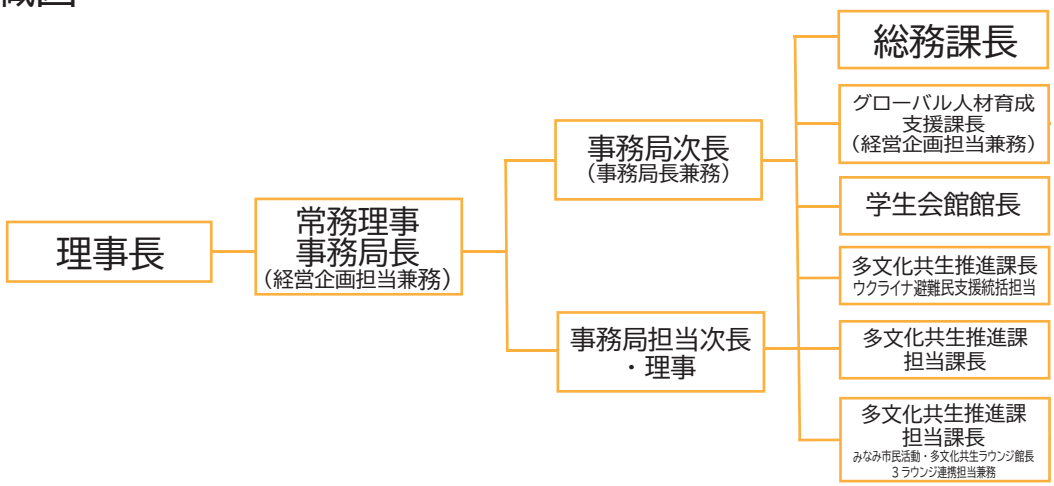
多文化共生社会の実現。それは、YOKE の最も重要な使命です。

横浜市の外国人人口は 10 万人を超え、街のなかで働く外国人や外国につながる子どもたちを見かける機会が多くなりました。高齢化と人口減少がすすむ日本において、社会経済活動を支える人材として、今後、外国人の受け入れが拡大していくと見込まれます。このような状況のなかで、地域、学校、職場などの様々なコミュニティにおいて、国籍、民族などを問わず、ひとりひとりの人権や文化的背景が尊重され、誰もが自分らしく活躍できるような社会づくりは、ますます重要になります。そのために、私どもは、引き続き外国人への支援を実施していくとともに、日本人と外国人を繋ぐことや、課題解決のために関係者を繋ぐなどのコーディネート機能を発揮していく所存です。

どうぞ、YOKE の活動に対する皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

2023 年８月
公益財団法人 横浜市国際交流協会　理事長　小野﨑 信之

役職図



YOKE 各事業の発行物・報告書等

■**YOKE 全般**
YOKE 中期 4 か年計画 2022 ～ 2025 ／事業計画書・収支予算書／事業報告書・収支報告書／賃借対照表／ヨークピア

■**横浜市多文化共生総合相談センター運営事業**
横浜市多文化共生総合相談センター案内
／YOKE 情報・相談コーナー 2015 年度報告書～外国人相談窓口から～
／横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から～相談対応事例集～

■**ラウンジ連携事業**
横浜市内の国際交流ラウンジ一覧（日・英・中）

■**地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業**
体制づくり推進事業2022（地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業ウェブサイト）

■**日本語学習**
YOKE 日本語教室 教室活動例集～伝え合おう 私のこと横浜のこと～
／YOKE 日本語教室教材例集 話してみよう！わたしのこと 横浜のこと
／さまざまな学習背景を持つ日本語学習者向けプログラム（例）の紹介

■**地域日本語教室との連携**
まちのにほんごプラットフォーム報告書／外国につながる子ども・親子を支える現場から報告書／横浜市地域日本語教室事例発表会報告書／日本語ボランティア研修会・教室実習型研修（日本語教室）の実施報告

■**横浜市通訳ボランティア派遣制度**
横浜市通訳ボランティア派遣制度～ボランティア登録案内～
／こんな時には通訳ボランティアを！／外国人のためのボランティア活動のしおり
／遠隔通訳のご案内

■**就学前の子どもと親の支援**
「おやこにほんごタイム」実施報告書／「おやこにほんごタイム」活動ネタ集／おやこにほんごタイム活動ネタ集 子育て・母子保健関連の多言語情報就学前の子どもと親の支援に関する取組調査・報告会／ - 外国人親子の日本語学習支援子育て支援事情 - 実施報告書／横浜で生活する就学前の外国人親子のための日本語学習支援・子育て支援調査報告書／「外国につながる子どものことばと育ち勉強会」「こどものことば勉強会」報告書／外国人の親子日本語教室「おやこでにほんご」（よこはま日本語学習支援センター）報告書

■**外国につながる子ども・若者の支援**
「外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会」報告書／「みんなどうしてる？外国につながる子どもの学習支援教室 活動ヒント集」／多文化共生の学校づくり～地域との連携を中心に～

■**多言語情報発信**
外国人に伝える広げる多言語情報の作り方／「多言語情報提供検討会」報告書／みなさんに知ってもらいたい言葉＿やさしい日本語

■**国際機関実務体験プログラム**
国際機関実務体験プログラム修了者アンケート調査報告書

■**横浜国際協力センター**
横浜国際協力センター案内

寄付のお願い

公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）では、事業を支援していただくための寄付金を募集しています。
YOKE は公益財団法人のため、寄付金については一定割合で税制面での優遇措置が受けられます。

■ 寄付の際、支援事業を指定できます。ご指定がない場合は充当する事業を当協会にて選ばせていただきます。

外国人子ども教育支援
外国人の子どもたちの日本語教育や教科学習を支援します。

留学生支援
横浜市国際学生会館ではさまざまな国から多くの留学生を受入れ、日本で勉強や研究に励む留学生を支援しています。

外国人への情報支援
横浜市の情報を多言語で発信することにより、在住外国人の生活支援と参加を促進しています。

国際交流・協力支援
「よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム」を立ち上げ、「SDGsよこはま CITY」を通じて市民の多文化理解や国際交流を支援しています。

※2023 年度は、「ウクライナ避難民支援」を目的とした寄付の募集を実施しています。

■ 2022 年度寄付金実績及び用途

分野	件数（件）	金額（円）	用途
外国人への情報支援	1	10,000	前年度繰越 161,500 円を含め、3 ラウンジの外国につながる子どもの学習支援事業等の在住外国人支援事業に充当
留学生支援	1	20,000	前年度繰越 750 円を含め、横浜市国際学生会館運営事業に充当
国際交流・協力支援	1	5,000	国際協力・交流プラットフォーム事業に充当
ウクライナ避難民支援	20	1,365,461	ウクライナ避難民支援事業に 365,000 円を充当（1,000,461 円繰越し次年度ウクライナ避難民支援事業に充当予定）
合計	23	1,400,461	

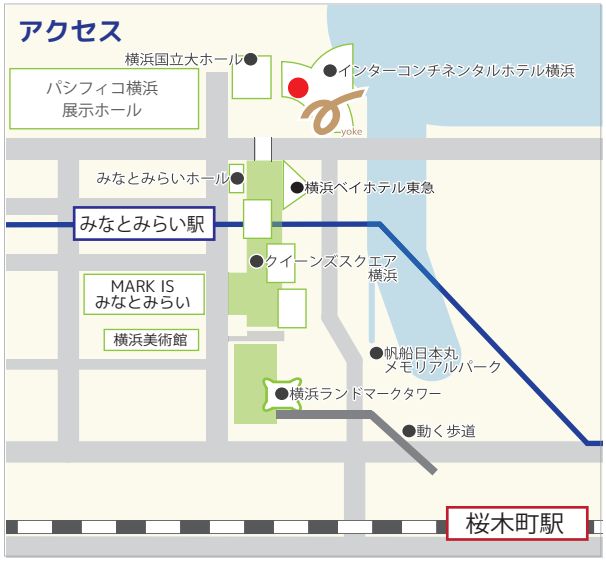
寄付や税制面での優遇措置については、総務課（電話 045-222-1170）までお問合せください。

「YOKE」の愛称について

「YOKE」とは、協会の英文名の中から YOKOHAMA の˝YOK“と EXCHANGES の˝E“を合成してつけた愛称です。横浜市と世界との˝きずな“を強くしていこうという気持ちで、「ヨーク」と呼んでください。

YOKE みなとみらい事務所

電話番号　045-222-1171（代表）
FAX 番号　045-222-1187
対応時間　平日 8：45 ～ 17：30
休　　日　土曜日、日曜日、祝日、年末年始



みなとみらい線「みなとみらい駅」下車徒歩 5 分
JR・市営地下鉄「桜木町駅」下車徒歩 15 分

シンボルマークの意味

「YOKE」のシンボルマークは英語の C にあたるギリシャ文字γ（ガンマ）が原型となっており、C はコミュニケーション、また、γは横浜の頭文字 Y にも通じ、横浜と世界の情報の円滑な流れ、そして緊密かつ、積極的な相互交流の推進の希いを表しています。なお、シンボルカラーは、セピア色（DIC337）と決定し、当協会の広報・諸事業の際に使用しています。（1982 年 1 月制定）

横浜市多文化共生総合相談センター

横浜市委託事業（国際局）

電話番号　045-222-1209
FAX 番号　045-222-1187
対応時間　平日 10：00 ～ 17：00（受付 16：30）
　　第 2･4 土曜日 10:00 ～ 13:00（受付 12:30）
対応言語　日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、タイ語、ウクライナ語
休　　日　※土曜日の電話対応は、日本語、英語、中国語、スペイン語のみ
　　第 1・3・5 土曜日、日曜日、祝日、年末年始

よこはま日本語学習支援センター

横浜市委託事業（国際局）

役　　割　① 地域日本語教育の総合的な体制づくりを進める基盤となる拠点
　　② 外国人住民の日本語習得支援のための拠点

なか国際交流ラウンジ

横浜市委託事業（中区）

住　　所　横浜市中区日本大通 35
　　中区役所別館 1 階
電話番号　045-210-0667
アクセス　JR「関内駅」（南口）徒歩7分
　　横浜市営地下鉄「関内駅」（1 番出口）徒歩7分
　　みなとみらい線「日本大通り駅」（3 番出口）徒歩4分

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

横浜市委託事業（南区）

住　　所　横浜市南区浦舟町 3-46
　　浦舟複合福祉施設 10 階
電話番号　045-232-9544
アクセス　横浜市営地下鉄ブルーライン「阪東橋」駅
　　4 番出口徒歩 5 分
　　京浜急行本線「黄金町」駅徒歩 10 分

鶴見国際交流ラウンジ

横浜市委託事業（鶴見区）

住　　所　横浜市鶴見区鶴見中央 1-31-2
　　シークレイン2階
電話番号　045-511-5311
アクセス　JR 京浜東北線「鶴見駅」東口 2 分
　　京浜急行線「京急鶴見駅」2 分

横浜市国際学生会館

横浜市指定管理運営

住　　所　横浜市鶴見区本町通 4-171-23
電話番号　045-507-0121
アクセス　JR 京浜東北線「鶴見」駅、
　　京浜急行「京急鶴見」駅徒歩 15 分
　　JR 鶴見駅東口より市営バス 15 系統（4 番乗り場）に乗車5分、「本町通3丁目」下車徒歩1分

YOKE の広報媒体

ヨークピア
YOKE や YOKE が受託運営する施設の事業について読むことができる広報誌です。年 4 回発行。

YOKE ウェブサイト
YOKE の事業や事業の詳細、研修会やイベントの最新情報を知ることができます。

「YOKE からのお知らせ」（メール配信）
YOKE および市内の国際交流ラウンジが開催する研修会やイベント情報を登録者がメールで受け取ることができます。
月 2 回配信。

YOKE facebook ページ
YOKE の事業や多文化共生に関する情報を随時投稿、シェアしています。

横浜市多文化共生総合相談センターの運営事業

横浜市多文化共生総合相談センターの運営

12 言語による多言語相談窓口を設置し、横浜で暮らす外国人等からの生活相談に対応しています。また、専門家による無料相談を実施するほか市内各行政機関、専門機関等とも連携し、必要に応じて適切な機関等を案内しています。
国際交流・ボランティア活動・外国人支援などの多文化共生に関する市民活動についても、情報提供・相談を行うと共に、多文化共生に関する市民や団体等からの様々なご相談にも対応しています。

相談員と対面で相談

タブレットを用いた通訳・相談

▶ウクライナ避難民支援事業

多文化共生総合相談センターの機能を拡充し、ウクライナ避難民支援相談窓口を開設しました。ウクライナ語コーディネーターが窓口に常駐し、避難民からの問合せにウクライナ語を含む 4 言語で対応できる体制を整えました。

この事業で行っている内容

□多言語による生活相談・情報提供
□通訳付き無料専門相談の実施（行政書士相談・教育相談・法律相談）
□多文化共生に関する相談への対応

＜横浜市委託事業＞

ウクライナ交流カフェ運営事業

ウクライナから横浜に避難されて来た方々を支援する横浜市の「オール横浜支援パッケージ」の一環として、ウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」を運営しています。ウクライナ避難民が情報交換や交流等を行い、安心して過ごすことができる居場所を提供します。

「ドゥルーズィ」でのワークショップの様子 1

「ドゥルーズィ」でのワークショップの様子 2

この事業で行っている内容

□ウクライナ避難民が母語で話すことで安心できる場所の提供
□生活等に関する情報提供
□ウクライナ避難民を対象としたイベントの開催および外部企画の調整
□ウクライナ文化理解、交流を目的としたイベント開催

＜横浜市委託事業＞

地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業
日本語学習コーディネート事業

横浜 x 日本語 x 多文化共生
～横浜の地域特性を踏まえた日本語学習支援を通じ、多文化共生のまちづくりを推進～

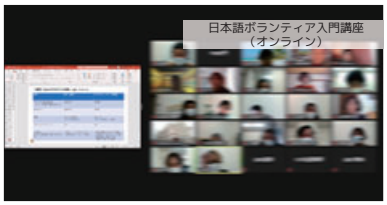
在住外国人数が増加している現状と、さらなる受入拡大が見込まれることから、日本語学習を通じて外国人が生活の場で円滑にコミュニケーションのできる環境を整えます。「横浜市域における地域日本語教育の総合的推進に係るアクションプラン」に基づき、日本語学習支援環境の充実を図り、広く関係機関や外国人を含む市民とともに、多文化共生に向けた取り組みを推進します。

当協会事業および横浜市委託・文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用事業を含みます。

この事業で行っている内容

□日本語教室の運営　□よこはま日本語学習支援センターの運営
□日本語・学習支援 教室データベース（横浜）運営　□情報冊子「にほんごコミュニケーション」の発行
□地域日本語シンポジウムの開催　□日本語教育人材に対する研修会　□ICT を活用した教育・支援
□まちの日本語伴走隊（団体への個別訪問事業）　□就学前の子どもと親の支援（子育て支援・親子教室）
など

日本語教室運営者研修会


日本語ボランティア入門講座（オンライン）

日本語・学習支援
教室データベース（横浜）

ラウンジ連携事業

国際交流ラウンジ等と連携し、横浜市域の多文化共生を推進しています。

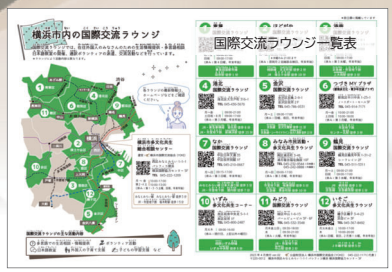
横浜市内には 12 の国際交流ラウンジが設置されており、外国人等に対する多言語による情報提供や相談対応をはじめ、情報収集、人材育成、交流事業、日本語教室等を実施しています。また、国際交流ラウンジの活動には、多くの市民ボランティアが関わっています。YOKE は「横浜市国際交流ラウンジの設置及び運営に関する指針」に基づき、国際交流ラウンジ協議会事務局として、市内国際交流ラウンジ等のネットワークによる情報共有や意見交換などを通じて、多文化共生のまちづくりを推進しています。

この事業で行っている内容

□国際交流ラウンジ協議会事務局の運営
□協議会連絡会、テーマ別分科会（窓口、通訳派遣、日本語、学習支援）の実施
□合同研修会の実施　など

横浜市内の国際交流ラウンジ（50 音順）

□青葉国際交流ラウンジ　□いそご多文化共生ラウンジ　□いずみ多文化共生コーナー
□金沢国際交流ラウンジ　□港北国際交流ラウンジ　□港南国際交流ラウンジ
□都筑多文化・青少年交流プラザ　□鶴見国際交流ラウンジ　□なか国際交流ラウンジ
□ほどがや国際交流ラウンジ　□みどり国際交流ラウンジ　□みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ



オンラインでの情報交換会

国際交流ラウンジ協議会連絡会（2019）

多言語情報発信事業

多言語情報発信で在住外国人のみなさんが生活しやすい環境づくり

横浜市に在住する外国人のみなさんへ様々な媒体を通して多言語生活情報をお届けします。外国人のみなさんにもわかりやすい情報提供の方法を協力者とともに周知し、「やさしい日本語」の活用を推進します。

多言語情報「よこ yoko」英語版

YOKE ウェブサイト（英語）

この事業で行っている内容

□多言語情報発信「よこ yoko」での情報発信（4 言語）
　使用ツール：YOKE ウェブサイト、YOKE facebook グループ
　横浜市多文化共生総合相談センター LINE 公式アカウント
□YOKE ウェブサイト（多言語）での機械翻訳を活用した情報発信（2023 年度試行）
□「やさしい日本語」の周知　□多言語の情報作成方法の周知と相談対応

多言語サポーター派遣・紹介事業

日本語が不自由な外国人等の言葉のサポート

YOKE と市内 8 カ所の国際交流ラウンジ等で共同実施している「横浜市通訳ボランティア派遣事業」では、日本語でのコミュニケーションが困難な外国人等が横浜市の公共窓口等を利用する際にボランティアの通訳者を派遣し、手続き等をサポートするとともに行政窓口等業務への支援を行っています。また、「横浜市通訳ボランティア派遣事業」で対応できない市内の公的機関・団体等で手続きなどを行う際の通訳に対して、登録している YOKE 語学ボランティアの紹介をしています。

区役所窓口での通訳の様子

タブレット通訳の様子

通訳ボランティア研修会

この事業で行っている内容

□主な派遣先：横浜市立小中学校、区役所、保育所、療育センターなど
□主な通訳内容：教員と外国人保護者との面談、区役所での手続き、乳幼児健診など
□主な通訳言語：中国語、英語、スペイン語、タガログ語、ベトナム語　など

外国につながる子ども・若者支援事業

学習支援ボランティア研修会
日頃の活動の振り返り（2020）

子どもたちが学校や地域社会で居場所を見出し、将来の展望を持てるように

学習支援教室情報交換会
（2019）

（注）「外国につながる子ども・若者」について
ここでは、国籍は日本でありながら、両親の両方又はどちらかが外国籍である人等、本人の国籍を問わず、様々な形で外国につながる子どもたち・若者たちを総称して使用しています。

外国人の定住化が進み、外国につながる子どもも今後ますます増加していきます。子どもたちの育ちから社会的な自立に至るまでを視野に、生活の質が高まるよう、ライフステージに応じた必要なサポートの実施を目指します。関連機関と連携し、情報提供や研修会等、学習支援教室の活動支援などを通じて、外国につながる子どもへの支援に取り組みます。

この事業で行っている内容

□学習支援ボランティア向け研修会の実施　□市内学習支援教室等との連絡会の開催
□「みんなどうしてる？　外国につながる子どもの学習支援　教室　活動ヒント集」web サイト公開
□情報収集、情報提供

国際交流情報提供事業

YOKE ウェブサイト
（日本語・多言語）

YOKE の情報や多文化共生に関する情報提供により市民の活動を応援します

YOKE の事業や多文化共生に関する情報、外国人のみなさんの生活に必要な情報を各媒体（広報紙、ホームページ、Facebook ページ、メール配信等）を通して提供し、市民の多文化共生への取組を支援します。また、行政や団体が企画する多文化共生に関する研修・イベントの広報支援を行います。

YOKE Facebook ページ

この事業で行っている内容

□広報紙ヨークピア発行（季刊）□ウェブサイト（日本語・多言語）の運営
□YOKE Facebook ページおよび各言語グループの運営　□「YOKE からのお知らせ」メール配信
□横浜市で多文化共生に関する活動を行う団体の紹介

外国人の災害時対応事業

いざそのとき、外国人が「災害弱者」とならないために

主に自然災害における外国人住民への情報提供など、外国人支援に向けた事業を行います。
横浜市との「外国人災害時情報センター設置・運営に関する協定」に基づく支援を含め、外国人等への災害時の支援体制の充実を図ります。

ボランティア研修会

横浜市総合防災訓練

YOKE 災害サイト

この事業で行っている内容

□災害情報特設ウェブサイトの運営　□YOKE 災害時通訳・翻訳ボランティアの管理
□国際交流協会間の連携等、ネットワークの構築　□防災意識の啓発（防災訓練への出展、ボランティア派遣等）
□横浜市外国人災害時情報センター設置運営訓練の実施

公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）中期４か年計画 2022-2025

YOKE は、横浜における多文化共生社会の実現に向け、外国とつながり横浜に暮らす人々、横浜で活躍する人々、そしてこれにかかわる様々な主体を「支え」「つなぎ」「相互理解を深める」役割を担っていきます。こうしたアクションを通じて「外国人が活躍する」社会を目指します。

施策 1　地域多文化共生を「ささえる」
在住外国人や地域への支援

施策 2　人と人を「つなぐ」
地域や学びの場におけるつながり

施策 3　相互理解を「ふかめる」
お互いの国の文化、国際的な課題への理解を深める

施策 4　外国人が「かつやくする」
各分野で外国人が社会参加し活躍する環境づくり

団体運営　政策を進めるにあたって土台となる持続可能な団体運営の取組

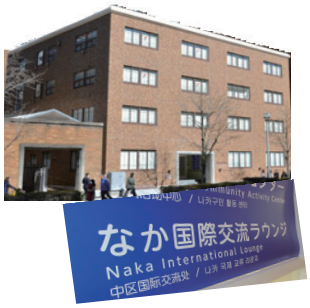
私たちは、2022 年度より「4 つの施策」と「団体運営」により計画を推進しています。詳細は、当協会ウェブサイトをご覧ください。
https://www.yokeweb.com/wp-content/uploads/2022/09/YOKE_chukikeikaku_2022_2025.pdf

国際交流ラウンジ運営事業

地域の多文化共生の拠点 多言語対応で外国人住民をサポート

市内で外国人登録者数が多い 3 区―中区（1 位 ）、鶴見区（2 位 ）、南区（3 位 ）から委託を受け、日本人と外国人がともに暮らす多文化共生のまちづくりに向け、国際交流ラウンジの運営を行っています。

YOKE では委託元の区役所、地域住民のみなさんと共に各地域の特色に合ったラウンジ運営を行っています。



なか国際交流ラウンジ（中区）

横浜市18区の中で外国人人口が最も多い区です。なか国際交流ラウンジ(以下、なかラウンジ）は日本大通にあり、観光地としても知られている横浜中華街の近くにあります。中区は「多文化共生推進アクションプラン」を策定するなど、多文化共生のまちづくりを推進しています。
なかラウンジは、施設と隣接している中区役所と連携しながら区民と共に多文化共生のまちづくりを進めています。

なか国際交流ラウンジ 多言語での生活相談

主な事業
多言語での情報提供・生活相談／暮らしの情報案内（新）／地域と連携した外国人人材育成／外国人住民の日本語学習支援／多文化理解促進のための講座／ボランティア登録・派遣事業／共生地域づくり推進事業等

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ（南区）

南区は中区と隣接しており、横浜市 18 区で外国人人口は 3 番目ですが、外国人割合は 2 番目という外国人が多い区です。みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ（以下、みなみラウンジ）は、市民活動支援センターと国際交流ラウンジが一体となった市内唯一の施設です。横浜下町の風情と昔からの文化を残しながら多文化が入り混じる街の様子は南区ならではの光景です。みなみラウンジでは、南区役所と連携しながら多文化共生の推進に取り組んでいます。

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ
外国人のための生活ガイダンス

主な事業
多言語での情報提供・生活相談／多言語による無料専門相談／外国につながる青少年ボランティアプログラム／日本語ボランティア教室支援／学校を核にした多文化共生事業／多文化共生コミュニティづくり事業／市民活動団体等への支援／「街の先生」事業／区内の市民利用施設間の交流・連携／ラウンジ祭りの開催／情報紙の発行等

鶴見国際交流ラウンジ（鶴見区）

鶴見区は横浜市の一番東側に位置し、川崎市と隣接しています。
横浜市 18 区で 2 番目に外国人人口が多い区です。ブラジルやペルーなど南米の出身者が多いことは鶴見区の外国人人口における特徴と言われて来ており、鶴見駅から海側の地域は南米のレストランや食材のお店も多く、南米の雰囲気を感じることができます。また、近年ベトナム人とネパール人が急増しており、それぞれ市内で最も多い人口数となっています。鶴見国際交流ラウンジでは、外国人住民に向けてホームページや Facebook のほか、Instagram、公式 LINE なども活用し、暮らしに役立つ情報を発信しています。

鶴見国際交流ラウンジ 多文化共生フェスタ

主な事業
情情報提供／相談対応／各種教室の実施／地域の人材（日本語・学習支援ボランティア）育成／外国人市民と日本人市民の交流／共生の地域づくりと地域人材育成推進事業

地球市民事業

「誰もが安心して豊かに暮らすことができる世界」を目指す人材の育成

横浜国際協力センター内の国際機関と YOKE が取り組む「食料、地球環境・都市問題・多文化共生のまちづくり等」を青少年が学び、地球市民の一員として課題解決に向けて自分たちにできることから行動していくことを応援するプログラムを提供します。語学講座では、市民が異文化理解、外国語によるコミュニケーション力、グローバルな視野などの向上を図る機会を提供していきます。

この事業で行っている内容

□国際平和・SDGs 小学校出前講座 □カスタマイズ講座
□国際機関及び YOKE での実務体験プログラム
□外国語コミュニケーション講座（英語・スペイン語） □コミュニティ通訳講座

国際平和・SDGs 出前講座

2019 年度（春期）国際機関実務体験プログラム 修了書を手にする研修生

外国語コミュニケーション講座 スペイン語講座の様子

国際協力・交流プラットフォーム事業

様々な団体が講座・イベントを通じて連携を強化し、国際協力・多文化共生を推進する枠組み

横浜で国際協力・交流・多文化共生に取り組む NGO/NPO・国際機関・行政・学校・企業など様々な立場の団体が イベントを通じて互いに連携を強化し、関係団体間の連携・ネットワークを継続的に推進する枠組み「よこはま国際協力･国際交流プラットフォーム運営委員会（よこはまＣプラット）」― YOKE はその一員として、様々な事業に取り組んでいます。

この事業で行っている内容

□SDGsよこはま CITY ～国際協力・多文化共生からのアプローチ～ （イベント全体の運営サポート、YOKE 講座の実施） □SDGs 勉強会、SDGs みなと喫茶、SDGs に関する動画の制作、動画ライブラリー ほか

オンラインイベントで小学校と結ばれた YOKE 会場オペレーションルーム

オンラインイベントで司会進行を担う大学生ボランティア

SDGs 推進事業での活動の様子

YOKE は SDGs(持続可能な開発目標）に賛同し、市民の実践的な取組が広がるよう小学校への訪問授業、青少年・社会人向けの地球市民講座やオンラインやリアル形式の講座・イベント「SDGsよこはま CITY」などを展開しています。
SDGs(SDGs:Sustainable Development Goals)とは，2001 年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として，2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された，2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され，地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGs は発展途上国のみならず，先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり，日本としても積極的に取り組んでいます。
参考：外務省ホームページ https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html

横浜国際協力センター運営事業

横浜国際協力センターの運営管理と国際機関・団体の支援活動

横浜国際協力センターは、横浜市が世界の平和と発展に貢献するため、環境・食料・都市問題など地球規模の課題解決に取り組む国際機関の活動拠点として、1991 年にみなとみらい地区に設置した施設です。YOKE では、施設の営繕の推進、入居機関・団体（8 機関・団体 ※YOKE を含む ）の支援・連携促進、各機関・団体が主催するイベントや訪問者・見学者の受入れに対応しています。
また、入居機関・団体と連携協力し、入居者が快適に活動できる環境づくりを推進しています。

横浜国際協力センターのある
パシフィコ横浜の全景

この事業で行っている内容

□施設内設備の管理・営繕　□入居機関、団体の支援
□各機関、団体が開催するイベントや訪問者・見学者の受入れ対応
□防災訓練の実施　□各機関・団体との定期連絡会の開催

横浜国際協力センター防災訓練

横浜国際協力センター入居期間・団体

□国際熱帯木材機関（ITTO）□アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）
□シティネット横浜プロジェクトオフィス
□国際連合世界食糧計画日本事務所（WFP）□国際連合食糧農業機関駐日連絡事務所（FAO）
□国際農業開発基金日本事務所（IFAD）□Y-PORT センター公民連携オフィス
□公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）

横浜市国際学生会館運営事業

私たちは、横浜と世界をつなぐ心のかけ橋をつくります

横浜市国際学生会館は、外国人留学生・研究者等のための宿泊施設および国際理解の促進を目的に横浜市が設立しました。YOKE が指定管理者として管理・運営しています。設立から 29 年目を迎え、これまでに 88 か国・地域から 2,500 人以上の学生たちを受け入れてきました。

留学生による出前授業

この事業で行っている内容

事業で行っている内容
□国際理解事業　□児童生徒国際理解事業（留学生による出前授業、グローバル人材の育成）
□市民文化交流事業（語学講座、文化講座、ホームビジット、研究発表会等）
□地域貢献事業（防災訓練等の災害対策、地域イベントへの参画 / 参加、民族衣装の保管と貸出）
□留学生支援事業（日本語チューターの紹介、留学生のための就職相談、留学生会によるイベント、市内の施設見学等）
□行政施策への協力　□広報事業（ニュースレター「よこはま地球村」の発行、ウェブサイトでの情報発信等）

秋祭りの様子

横浜市多文化共生
YOKOHAMA Fo
Informa

2023年8月